

令和 元 年度 福岡市立 [舞鶴小・中] 学校 学校評価実施状況(公表用)

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方針
○教育目標がすみずみまで生かされ静かな落ち着いたなかには活力ある学校 ○自主・・・自分で考え行動する児童 自分を律し、自主的・自立的に問題解決ができる生徒 勤勉・・・心も体も健康で粘り強く最後まで実践する児童 たくましく自己の進路を切り開くことのできる生徒 友愛・・・自他のよさを認め合って活動する児童 自他の能力を認め、その価値を敬愛できる生徒 ○教職としての識見と指導力を高め、豊かな人間性を培うために研究と修養に励む教師		小中連携の推進	これまで共同で進めてきたキャリア教育の推進を軸に連携を進めていく。具体的には舞鶴eyeと規定している本校児童生徒の目指す姿を9か年を見通すことができる本校のよさを生かして練り直す。その姿を発現させるために学習、生活の両面から小中が連携して手立てを講じていく。そのための情報、意識、基準などの共有を進めていく。
		自主的な学習態度の育成	小中ともに掲げている研究主題である『自ら学びに向かう子ども』を具現化することを目指す。その過程で自学ノートの活動の充実や授業中の学習や帯学習と家庭学習の接続を意識させる工夫や指導が必要であると考え。また、キャリア教育の視点での授業改善も並行して進めいく。具体的には見通しと振り返りを徹底して、自ら先を見通す習慣、自分の足跡を振り返る習慣を汎用的に活用できる力に結びつけるようにする。
		自立した児童生徒の育成	自分たちで考え行動でき、自分から問題解決に取り組むことができる児童生徒の育成のための方策を行う。具体的には児童会、生徒会活動、及びその中でいじめゼロの活動の充実、部長会の積極活用による部活動活性化、委員会、班活動で児童生徒同士のつながり強化を進める積極的生徒指導の推進を行う。この過程で自己有用感が育まれ、粘り強く課題に向き合うたくましさの涵養につながると考える。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
小中連携の推進	学力の情報の共有化を図る小中合同研を行う	本年度は舞鶴小・中学校がA事業の発表の年度に当たり、A事業の取り組みを小中連携の核に据えて1年間の活動を行った。A事業発表のテーマを小中連携で取り組むことで成果を高めることができるキャリア教育としたこと、さらにキャリア教育の活動を教科の授業に落とし込むことをねらいとした研究に共同で取り組んだことがその特色である。 その過程で、小学校と中学校の学力や学習内容の共有化を図った。キャリアパスポートの運用を始めることができた。合同研修の実施については十分に機会を設けたが、ここで得た情報の活用は今後も課題といえる。また、これらは研究を進めていく上で必要な情報であり、研究の推進にもつながり、参加者アンケートにも効果が反映されたと考え。	
	A事業において、「参考になった」という参加者アンケート結果80%をめざす。		
	0		
学力の向上	全国学力・学習状況調査・福岡市学習定着度調査等で全教科平均以上の成績を達成する。	「自ら学びに向かう」というA事業の研究主題にもある学習姿勢の定着を進めるため、基礎的な内容の定着で困難を感じる児童生徒を減らすための取り組みを実践した。次に、家庭での学習時間確保、保護者と学校が児童生徒を中心に向き合い育むための関係づくりの一環として自学ノートを実践させた。さらに、A事業の取り組みに基づいて授業改善を推進した。職員の授業改善への取り組みの自己評価については肯定的な回答が100%であり、A事業の取り組みやそれに向かう職員の熱が高まったと言える。学力についての各調査の結果は概ね良い状況である。中には平均と同程度や分野ごとにポイントで見るとわずかに平均を下回る部分もあり、その点について重点的に改善を加える必要がある。	
	自学ノートを活用した家庭学習の毎日の実施(提出率90%以上)と、担任による点検、助言を行う。		
	0		
不登校児童生徒の減少	Q-Uアンケート、いじめアンケート(毎月)を実施・検証を行い、いじめゼロへの取り組みを行う。	自主自立を軸に児童生徒の育成にあたった。学級力アンケートで自分たちの集団としての弱点や互いに考えていることを可視化することや、生徒会活動、及びその中でいじめゼロの活動のさらなる推進、部長会の積極活用による部活動生集会の活性化、委員会活動での新たな活動への取り組み増加などの積極的生徒指導により、自分で考え行動する児童生徒の育成につながっていると考える。学級力アンケートの結果については自尊感情の項目は60%以上になっている。ただし、自己有用感の高まりや具体的効果としての不登校児童生徒減少や遅刻改善者の増加には必ずしも結びついているとは言えない。今後も児童生徒の自主的な活動児童生徒の育成を進める。	
	学級力アンケートにおいて、自尊感情・規範意識の項目を肯定する児童を60%以上にする。		
	遅刻改善者10名をめざす。		
	0		
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
○ 小学生低学年に対して、中学生が優しく接する様子が微笑ましく、学校内で様子が見えるようです。小中の先生方全体で子どもたちを育てていただきたいと思います。 ○ 小中連携の取組として、自学ノートの活用等、子どもたちが向上でき、心が育まれる教育を目指していることを強く感じた。 ○ 小学校・中学校9年間通して教育を継続してがんばってほしいです。 ○ 自ら考えて積極的に行事や学校生活に取り組んでいる姿が見えますので、引き続き頑張っていただきたいと思います。 ○ 礼儀、挨拶等もしっかりできているのでとても評価しています。			